

## Q06b 散開星団の高精度偏光分光観測

菊地 厚人(東北大理)、関 宗蔵(東北大理)、松村 雅文(香川大教育)

Stock2 は  $\eta$  &  $\chi$  Per の北  $1^\circ$  にあって約  $1^\circ$  の角直径を有する散開星団である。距離は約 320pc、年齢は約 2 億年と見積もられる。この領域では周囲と比べて赤化量・偏光度ともに高くなる傾向があり (Krzeminski and Serkowski 1967 他)、また CO 輝線や IRAS100  $\mu\text{m}$  放射も明らかに強い。これらの特性がこの散開星団に付随した星間物質によるのか否か、またそれらの空間構造と分布特性は、散開星団を形成後の星間物質の緩和について理解する上で重要な情報源となる。

そこで、可視域において高い偏光測定性能を有する HBS を用いて、Stock2 星団に属する 30 星を、とくに偏光位置角の特性に着目して観測しなおした。その結果、星団内の位置によって偏光位置角およびその波長依存特性が系統的に異なっていることを見いだした。講演ではこれらの結果をもとに、星団内 (and/or 星団前景) における星間物質分布と物理特性の空間的な変化について考察する。